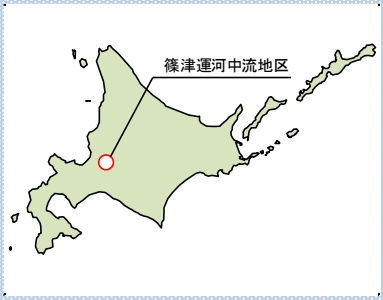
国営かんがい排水事業

しのつうんがちゅうりゅう

篠津運河中流 地 区

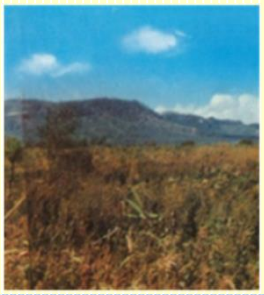


地　域　の　概　況

本地区は石狩川の中下流に拡がる石狩平野に位置し、戦後、世界銀行からの融資を受けた篠津地域泥炭地開発事業(S30～46)により、かんがい排水施設の整備と開拓や客土を進め、特殊土壌である泥炭を克服し、わが国有数の農業地帯として発展してきた。

現在は水稲を中心に小麦、大豆、小豆、ブロッコリー、レタス、ゆり等を組み合わせた農業経営が展開されている。北海道有数の良食味米の生産を行い、JA新しのつでは米の「輸出産地リスト」に登録し輸出の拡大を図っている。併せてブロッコリー、レタス等の高収益作物の生産拡大等による産地収益力の向上を目標としている。

○かつての篠津原野



○篠津地域泥炭地開発事業
（篠津運河の開削）

○現在、江別市のブロッコリー・
レタスの収穫量は全道１位

地 区 の 現 状 と 課 題

地区内の用水について、水稲の作付減少や近年の野菜類の作付拡大等に伴い水需要が変化しているとともに、施設の経年的な劣化等が進行しており、特に南美原揚水機では堆積した土砂の除去など、維持管理に多大な費用と労力を要している。

また、地区内の排水は、降雨形態や土地利用の変化に伴い、流出量が10%増加しており、施設の排水能力が不足し、湛水被害が発生するなど農業生産性が低下している。

○南美原揚水機の取水阻害
（導水路の堆砂）

○用水施設の経年的な劣化
（管水路・空気弁）

○湛水被害の発生

事　業　目　的

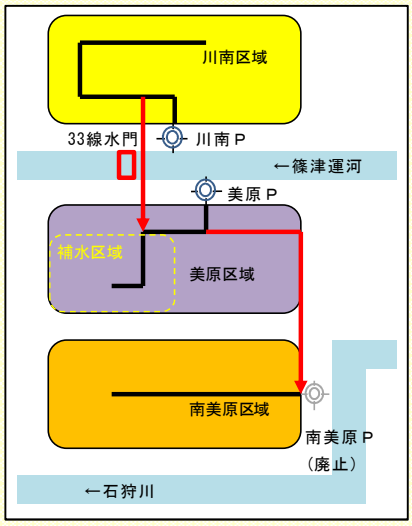
本事業では、水需要の変化等に対応した用水再編と流出量の増加に対応した排水改良を行うとともに、既存の用排水施設を整備し、併せて関連事業において支線排水路を整備することにより、農業用水の安定供給と維持管理の軽減及び農地の湛水被害解消を図り、農業生産性の向上及び農業生産活動の継続的な実施に資するものである。

事　業　計　画　概　要

受益面積	：	4,962ha
工　　期	：	令和４年度～令和18年度（予定）
関係市町村	：	江別市、石狩郡当別町及び新篠津村
受益戸数	：	294戸
主要工事	：	調節水門１箇所（改修）、揚水機場２箇所（改修）、 排水機場１箇所（改修）、用水路６条L=12.1km、排水路３条L=5.9km
主要作物	：	水稲・小麦・豆類・野菜類（ブロッコリー、レタス）・花き（ゆり）

【用水再編】

○南美原揚水機場を廃止し、その機能を既存の2揚水機場に統合



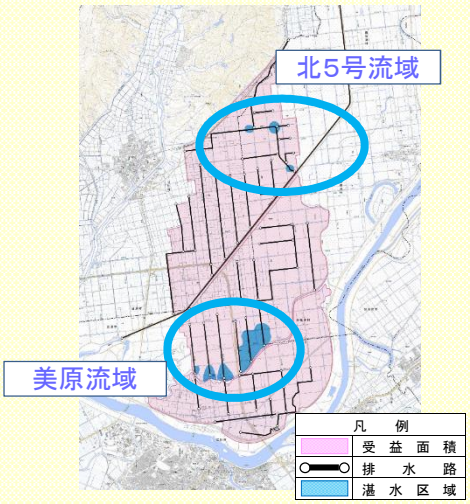
【用排水施設の整備イメージ】

○幹線用水路

○幹線排水路

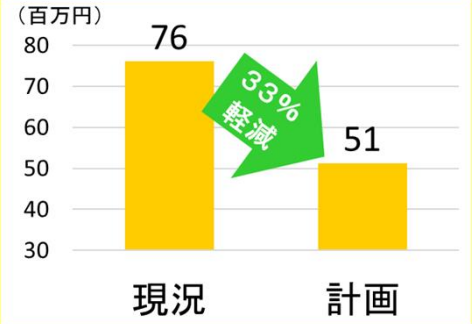
【湛水被害の解消】

○排水路等の整備により湛水被害を解消

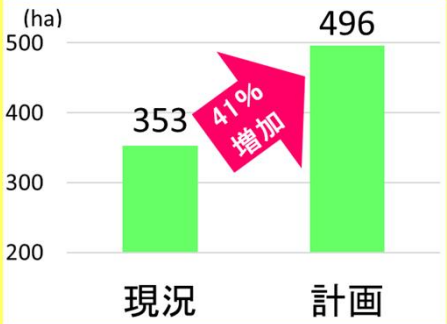


○老朽化した施設を改修し、農業生産に不可欠な用水を継続的に安定供給する
○揚水機場を再編・統合し、維持管理費の軽減とエネルギー使用量の低減を図る
○排水施設の機能を増強する整備を行い、湛水被害の解消や農地の排水性改善により野菜等の作付拡大を推進し、農業の収益性向上を図る

○用水施設の維持管理費の軽減



○高収益作物（※）の生産拡大



（※）
小豆、かぼちゃ、たまねぎ、レタス、ブロッコリー、ゆりの作付面積合計